

第1問 指数関数・対数関数、三角関数

[1]

$$(1) \quad \log_2 x = \log_4(2x+3). \quad \dots \textcircled{1}$$

①において真数は正だから

$$x > 0 \quad \text{かつ} \quad 2x+3 > 0$$

より、 $x > \boxed{0}$ である。このとき

$$\begin{aligned} \log_4(2x+3) &= \frac{\log_2(2x+3)}{\log_2 4} \\ &= \frac{\boxed{1}}{\boxed{2}} \log_2(2x+3) \end{aligned}$$

であるから、①は

$$\begin{aligned} \log_2 x &= \frac{1}{2} \log_2(2x+3) \\ 2 \log_2 x &= \log_2(2x+3) \\ \log_2 x^2 &= \log_2(2x+3) \end{aligned}$$

より

$$x^{\boxed{2}} = 2x+3$$

と変形できる。さらに

$$\begin{aligned} x^2 - 2x - 3 &= 0 \\ (x+1)(x-3) &= 0 \end{aligned}$$

となるから、 $x > 0$ とあわせて、①の解は $x = \boxed{3}$ である。

(2) $k > 0$ とし、 x の方程式

$$\log_2 x = \log_4(2x+3) + k \quad \dots \textcircled{2}$$

を考える。

②において真数は正だから $x > 0$ である。このとき、②は

$$\begin{aligned} \log_2 x &= \frac{1}{2} \log_2(2x+3) + k \\ 2 \log_2 x &= \log_2(2x+3) + 2k \\ \log_2 x^2 &= \log_2(2x+3) + \log_2 2^{2k} \\ \log_2 x^2 &= \log_2 \{(2x+3) \cdot 2^{2k}\} \end{aligned}$$

より

$$x^2 = \boxed{4}^k (2x+3) \quad \dots \textcircled{3}$$

と変形できる。②の解は③を満たす正の実数 x である。③の

実数解は放物線 $C: y = x^2$ と直線 $\ell: y = 2 \cdot 4^k \left(x + \frac{3}{2}\right)$ の交点の x 座標であるから、 $k > 0$ のとき

$$(\text{直線 } \ell \text{ の傾き}) = 2 \cdot 4^k > 2$$

であることに注意して、次図より

底の変換

$a > 0, a \neq 1, b > 0, b \neq 1, M > 0$ のとき

$$\log_a M = \frac{\log_b M}{\log_b a}.$$

←

$$\leftarrow \log_2 4 = \log_2 2^2 = 2.$$

← $x > 0$ のとき

$$2 \log_2 x = \log_2 x^2.$$

← $a > 0, a \neq 1, M > 0, N > 0$ のとき

$$\log_a M = \log_a N \Leftrightarrow M = N.$$

$$\leftarrow 2k = \log_2 2^{2k}.$$

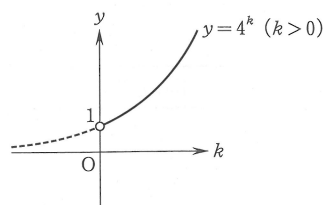
← $a > 0, a \neq 1, M > 0, N > 0$ のとき

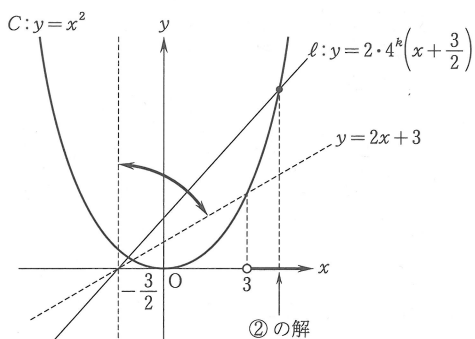
$$\log_a M + \log_a N = \log_a MN.$$

$$\leftarrow 2^{2k} = (2^2)^k = 4^k.$$

← ℓ は点 $\left(-\frac{3}{2}, 0\right)$ を通り、傾きが $2 \cdot 4^k$ の直線を表す。

←





②の解のとり得る値の範囲は $x > \boxed{3}$ である。

また、②の解が6のとき、③に $x=6$ を代入して

$$6^2 = 4^k \cdot (2 \cdot 6 + 3)$$

$$4^k = \frac{12}{5}$$

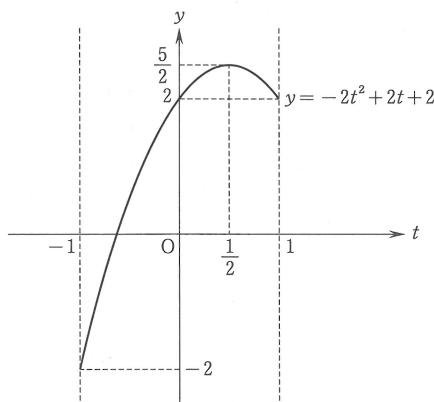
より、 $k = \log_4 \frac{\boxed{12}}{\boxed{5}}$ である。

[2]

(1) $y = \cos 2x + 2 \sin x + 1$. ($0 \leq x < 2\pi$)

$\cos 2x = \boxed{1} - \boxed{2} \sin^2 x$ であるから、 $t = \sin x$ とおくと

$$\begin{aligned} y &= (1 - 2 \sin^2 x) + 2 \sin x + 1 \\ &= 1 - 2t^2 + 2t + 1 \\ &= \boxed{-2} t^2 + \boxed{2} t + \boxed{2} \\ &= -2 \left(t - \frac{1}{2} \right)^2 + \frac{5}{2}. \end{aligned}$$



$0 \leq x < 2\pi$ のとき $-1 \leq t \leq 1$ であるから、 y は $t = \frac{1}{2}$ のと

← k がすべての正の実数をとって変化するとき、 l は $x > 3$ を満たす C 上のすべての点を通る。

← 2倍角の公式。

← $0 \leq x < 2\pi$ のとき、 $-1 \leq \sin x \leq 1$ 。

き, すなわち $x = \frac{\pi}{6}$, $\frac{5}{6}\pi$ のとき最大値 $\frac{5}{2}$ を

とり, $t = -1$ のとき, すなわち $x = \frac{3}{2}\pi$ のとき最小値

-2 をとる.

(2) $y = \sin x$ のグラフを y 軸方向に 1 だけ平行移動すると,
 $y = \sin x + 1$ のグラフとなる.

$y = \cos x$ のグラフを x 軸に関して対称移動すると,
 $y = -\cos x$ のグラフとなる. よって, ヒ には ④ が当てはまる.

$$\sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right) \text{ であるから,}$$

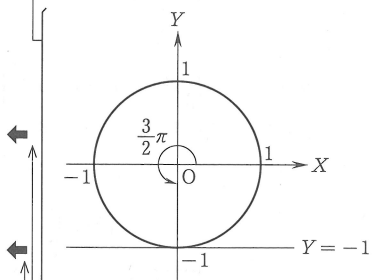
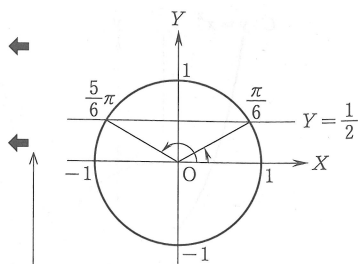
$y = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$ のグラフを x 軸方向に $-\frac{\pi}{4}$ だけ平行移動すると

$$\begin{aligned} y &= \sqrt{2} \sin\left\{\left(x + \frac{\pi}{4}\right) + \frac{\pi}{4}\right\} \\ &= \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{2}\right) \\ &= \sqrt{2} \cos x \end{aligned}$$

すなわち

$$y = \sqrt{2} \cos x$$

のグラフとなる. よって, ホ には ① が当てはまる.



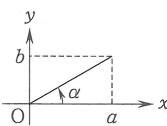
曲線 $y = f(x)$ を x 軸に関して対称移動した曲線の方程式は
 $y = -f(x)$.

三角関数の合成

$(a, b) \neq (0, 0)$ のとき

$$a \sin \theta + b \cos \theta$$

$$= \sqrt{a^2 + b^2} \sin(\theta + \alpha).$$



曲線 $y = f(x)$ を x 軸方向に p だけ平行移動した曲線の方程式は
 $y = f(x - p)$.